

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	1090300490		
法人名	株式会社 ケア・コスモス		
事業所名	グループホームコスモス仲町の家		
所在地	桐生市仲町1丁目13-33		
自己評価作成日	令和6年3月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	令和6年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日を笑顔で過ごすことが出来るよう、普段からのコミュニケーションを大切にしている。常に初心にかえり、入居者様の気持ちに沿ったケアができるよう心掛けています。週3回、1日置きの入浴を行うことにより、全身の観察ができ、早期発見、対応、処置に繋がっている。1日5回(体操2回 口腔体操3回)を毎日行うことで、時間の把握、生活のリズム作りとなっている。同じ体操は覚えることが出来、「これいつもやっているやつだね」とわかっていることを嬉しそうに話されており、違った体操も取り入れることで、新鮮な気持ちで参加できるように工夫している。家族ではないが、家族のように慕いあえる心あるケア、入居者様への尊敬の心を持ち続けている。職員間では、互いを思い合い、問題、相談等は、すぐに話し合うことが出来る環境である。

毎月の職員会議の中で、3ヶ月毎に介護計画のモニタリングを行い、プラン案を家族に内容確認をお願いして、家族からの要望があればプラン案を訂正して再度家族が内容確認後、プランの確定をするという、家族を重視した丁寧なプラン作りに取り組んでいる。また、無断外出の利用者にはその後ろから職員が見守りながら追尾して、利用者が満足するまでの散歩が可能な支援に取り組んでいる。リビング・ダイニングを囲むように4つの居室と5つの居室が有り、居室の近くには4箇所のトイレが有る。利用者は個々人の決められたトイレを利用することで、間違いの少ないトイレ利用を可能にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、リビング、玄関に理念を掲示している。 入居者様一人ひとりに寄り添い、笑顔で穏やかに過ごしていただけるよう支援している。	法人は令和4年開設ということもあり、理念は前の法人の理念を踏襲し、別に倫理を掲げている。管理者は年2回の個人面談時に、理念に沿った実践遂行を確認し、理念にある「笑顔」を重視してのケア実現に取り組んでいる。	理念の言葉の意味を職員で話し合い、共有化する機会づくりに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受入れ・昔よく歩いた通りや店、公園等に出かけたり、近所の顔見知りの方と楽しくおしゃべりをする機会を持つようにしている。	コロナウイルスの感染症法上の位置づけも変わり、ボランティアの申込みもあることから、受け入れを検討している。近隣の住民とは外出時に立ち話の機会もあり、今後も地域の一員としての広い交流の場作りを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や問合せ等で、施設の役割等を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議には、市役所・地域包括・地域協力委員・かかりつけ医2名・ご家族の参加もあり行っている。 会議においてホームの活動の様子・ひやりはっと・事故報告等の報告等行い助言いただいている。	令和5年9月から、対面で市・町会長・民生委員・協力医・家族代表の出席を得て、運営推進会議を再開している。会議は事業所のことをより知ってもらう機会づくりとして、事業所の報告事項が中心となっている。議事録には出席者の感想等も記載され、メンバー全員に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解らない時には市役所に相談し助言いただいている。	市への各種報告事項等は、メールを中心で行われている。運営推進会議の議事録は、郵送している。難しい相談事については担当課へ出向くなど、協力関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止のパソコン研修を全員受講し研修後の報告書を提出している。 現場において拘束になっていないか、しないための策を常に考え話し合いの場を持っている。	令和5年度より、施設内研修制度を導入し年6回開催するなか、身体拘束をテーマにして2回開催している。また、毎月の職員会議でも身体拘束に繋がるケアについて事例ごとに話し合い、「身体拘束しないケア」実現に向けて話し合いが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待においてもパソコン研修を全員受講している。 入浴の際は全身の確認を行い皮膚の変化が見られた時には記録に残し情報の共有・改善・防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の後見人と連絡を取り状態の報告や入居者様が金銭面での不安がある時には説明をお願いしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望時に見学をしていただくと共にホームの様子をお伝えしている。 契約時に重要事項の説明を行い疑問点や不安がある時には時間をかけて説明し同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。 運営推進会議において、ご家族様交代で出席されご意見いただく他に議事録を毎月のお便りに同封し報告している。内容についてお電話いただくこともある。	家族とは面会時に利用者の近況等を報告して、意見の交換が行われている。コロナ禍でもあり、利用者との面会はガラス越しで行われている。	家族には、職員と共に利用者を支え合う立場から、事業者から運営に関する具体的な内容を提案するなどして意見の聴取及び運営に反映されることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議を開催し職員の意見や提案を議題として取り上げ意見交換を行っている。	月1回の職員会議は、サービスに関する意見・情報交換・介護計画のモニタリングなど、発言の場となっている。また、職員は年2回の個別面談でも、提案等の機会が設けられている。職員から物干し台の増設についての意見があり、早速実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的・必要時に面談を行い問題解決や働きやすい環境整備に努めている。 ストレスチェックを定期で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年6回のパソコン研修を行うことで実践に生かすことが出来ている。研修後は職員間で話し合いや再確認を行っている。 職員会議の場面で虐待や拘束などについて触れることで職員の教育を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に事業所に訪問し交流の機会を持つようにしている。令和6年3月に地域密着型サービス事業所の集団研修指導に出席予定。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際困っている事・不安な事等の聞き取りを行う。その後も気持ちに寄り添いながら話を傾聴し安心して過ごすことが出来るよう支援を継続している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様はもちろんご家族様にとっても見通しの良いホームであるよう心掛けています。入居者様の状態の変化について細かく報告しご家族様の思いを汲み取るようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にご本人・ご家族様にとって必要と思われる支援、またはサービスについて説明し対応できるよう努めている。訪問歯科やマッサージ等のサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来る事は見守り必要なところは補助する。出来る事を一緒に行うことも楽しみの中で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で状態の報告を行う際ご家族が不安に思っている事・感じていることを聞き取り、ご家族と共に入居者様の事を一緒に考えていく体制を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や会話の中で面会に来ていただくよう勧めています。ご家族様・知人・婦人会などかなり面会が増えている。通院で外出した際の帰り道に自宅があった近辺を回って帰ることもある。	感染予防を行い、家族や友人等の訪問ができることを徐々に伝えて、利用者の笑顔が実現するよう支援している。家族の迎えで自宅へ外出した利用者は家族と大切な時間を過ごすなど、馴染みの関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数の中で性格も生い立ちも違う方々が生活されているため合う合わないはあって当然と考えています。出来るだけストレスを溜めない環境作り・輪が持てるように職員が仲介役になるようにしています。レクや行事などで交流できる場を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても電話や相談には随時受け付け対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけその人に合った生活スタイルで過ごせる様支援している。困難な方にはご家族様からの情報をいただくと共に職員間で情報の共有をし希望や意向の把握に努めている。	日常の利用者の行動や言葉から、利用者の思いを推し量り、本人本位のケア実現に取り組んでいる。意思を表出できない利用者には家族からの情報をもとに、日頃の様子や表情からその人の今の気持ちの把握に努め、適切なケアを模索している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報や入居されてからの様子を職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ケース記録や体温表にバイタル・水分量・食事量・排泄状況・行動等記録している。業務日誌には特記事項を記入し日々の変化について情報を共有している。必要時カンファレンス実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の希望や要望を組み込み現在の課題をあげ介護計画を立案している。カンファレンスにて評価し修正している。	3ヶ月に1回、職員会議の中で職員からの情報と介護計画案をもとにチームで支援の効果をモニタリングし、担当者会議で話し合わせ、より現状に沿った介護計画書の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化を細かく記録し口頭での引き継ぎを行っている。職員間でも話し合い情報交換・共有を行っている。日々の様子で気づきがあれば介護計画の見直しもを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況をご家族に相談しリクライニング車椅子・歩行車のレンタル。ハミングット、食事補助具その他多数の個人購入を行い支援に繋げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭り(桐生祭り・恵比寿講)をテレビで鑑賞したり行事(紅白団子・お雛様・七夕・桃の花・風鈴)などホームに飾り付けを行っている。 歌や踊り仮装等の慰問も行い外部との交流で刺激を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居希望時に往診を受ける医療機関がかかりつけ医になることを説明し了承を得ている。月1回の往診の他に急変時には通院や往診・指示をいただく等対応している。	利用者は全員が、協力医療機関の訪問診療を受けている。他科への通院は、家族による受診が原則となっている。利用者の健康状態に応じ訪問歯科や、週1回看護師によるケアが受けられるなど、安心出来る医療体制が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態に変化がある場合には随時連絡・報告・相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族や医療機関との連絡・連携を取り現状の様子を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・ご家族の希望や要望を確認し記録している。入居者様の状態についてはこまめに電話で報告を行い必要時重要事項等の確認を行っている。	入居時に本人・家族から重度化や看取りについての要望を伺い、事業所でできることを説明して、同意書を提出してもらっている。利用者の病状に応じ医師からの説明を受け、看護師・管理者・職員・家族のチーム支援を考えている。	今後、経験するであろう重度化した場合や看取りについて、事業所でできることの具体的な支援等について、検討することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応マニュアルを作成し定期的に確認を行っている。事故報告やひやりはっと報告書をもとに職員間で検討し再発防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は防災設備会社指導の年2回の訓練を行っている。水害時の避難場所を確認し職員に周知している。	火災や自然災害、昼夜を問わず、要介護状態にある利用者の今後の避難方法等を全職員で話し合っているが、特に、夜間想定での利用者の避難は大きな課題となっている。備蓄は水やお粥等となっている。	避難訓練時には、地域住民の参加依頼など、地域の人々の協力が得られるよう具体的な話し合いをすることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳や人格を尊重した声掛けやコミュニケーションを心がけている。記録や個人情報の取扱いに注意をしている。	利用者には、目上の人なので、常に尊厳を保持する態度で業務に取り組んでいる。トイレ誘導も言葉を選び、排泄時は利用者から視線をはずし、速やかに介助するなど、羞恥心に配慮したケアに取り組んでいる。個人情報に関する記録・保管や送り等については、場所を選び慎重に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が希望や思いを伝えられるよう日頃からコミュニケーションを大切にしている。伝わりやすい言葉を使う・個々に合わせた説明を行い自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっているが個々のペースに合わせて他者との交流をしながらその人らしく一日を過ごすことが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅で生活していた頃に着ていた衣類を持参していただいている。季節や着心地・身体状況を考えやすい物をご家族に依頼したり購入している。 毎日の整容では洗面が難しい方には温タオルをお出ししている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	刻み食・ミキサー食での提供があり安全で食べやすいことに加え盛り付け方や器等食べたい気持ちになるよう工夫している。 季節の行事では季節を感じられる食事を提供している。	献立とそれに伴う食材は、業者提供となっている。職員が多少のアレンジを行い調理するなど、利用者の希望に対応している。季節によって、おはぎやお団子、誕生会はケーキを利用者全員に提供など、楽しい時間を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりに合わせた食事形態や食事量・食べやすい器を使う等工夫している。毎食汁物を提供し水分摂取が苦手な方は量を多めにすることで補っている。行事やおやつ等の特別食提供の際は特に注意し見守りを行い必要時は介助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。個々に合わせた支援で自力後仕上げ磨きを行ったり、ハミングットを個別に購入し使用している方もいる。 拒否がある場合には時間を置く、職員を変える等工夫し無理なく行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の訴えや個々の排泄パターンにより誘導し立ち上がりやすい時には2人で介助を行っている。排尿排便量・時間は体温表に記録している。	自らの力でトイレで排泄することの大切さから、おむつの利用者もいるが、トイレ誘導の声掛けも工夫するなか、自立排泄実現に向けた支援が行われている。利用者の排泄パターンの把握・トイレ誘導方法・便座で座位が保てない場合の介助など、利用者個々の状況にあったケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に身体を動かす機会を作りおやつにはヨーグルトや寒天・果物を取り入れている。便秘時には処方の便秘薬や坐薬で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間・方法・湯の温度やつかる時間等個々に合わせた対応を1対1で行っている。全身確認・皮膚状態の観察を行い変化がある際は業務日誌や個人記録に記載し口頭でも伝達している。	週3回の入浴は、利用者の不穏解消の為に、1名の利用者に1名の職員で支援している。身体を洗いながらの会話など、楽しい時間を演出している。入浴拒否の場合は、職員の変更や、時間をあけ再度誘う等の工夫をし、清潔保持とともに、利用者との信頼関係構築の機会としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの体調に合わせて休息を取っている。空調や掛物の調節を行い安眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬収納扉に各入居者様の薬剤情報をファイルしすぐに確認できるようにしている。服薬内容に変更があった際は都度薬剤情報を更新し業務日誌に記入し伝達している。服薬の際は日にち・時間・名前を読み上げ職員間で確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや衣類整理・居室の掃除等出来る事を見つけ行っている。塗り絵や作品作り・歌を歌ったり言葉遊び等個々の楽しみ方を考えながらレクに取り入れ気分転換を図っている。誕生会や四季折々の行事ではおはぎやケーキ・団子・お汁粉等手作りしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気が良い日にはウッドデッキにて日光浴を行ったり1対1で短時間の散歩に出かけている。本人の希望がある際は時間を取って支援している。	暖かい日には、ウッドデッキで日光浴・外気浴を楽しんでいる。また、事業所周辺を散歩する利用者は近所の人と会話を交わすなど、交流の機会にもなっている。家族の送迎でお墓参りなどで外出する利用者もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある際はご家族と相談の上所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人・ご家族より希望あった際は職員が間に入り電話のやり取りをしている。 毎年ご家族に年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう飾り物をしたり温度・電気の調整をし玄関に生花を飾り視覚・臭覚でも感じられようようにしている。 毎日掃除を行い汚れが見られた時にはすぐに掃除している。	毎日、職員と利用者は一緒に掃除をしている。外からの強い光は障子やカーテンを利用し調節している。居室の近くに個々の利用者専用のトイレが4ヶ所あり、わかり易い・利用しやすい支援がなされている。利用者が動きやすい動線の確保が工夫され、安心して暮らせる空間作りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・廊下・居室にソファを設置し自由に使えるようにしている。リビングのカーテンを洗濯ばさみで調整し日光浴する方・光が苦手な方の対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具・食器・寝具等使い慣れた物を持参いただき在宅時の生活により近づける様努めている。居室内はご本人・ご家族と相談し過ごししやすい配置になっている。	使い慣れた物の持込みは自由であり、長年使用している家具や写真等は家族と利用者で相談しながらレイアウトして、その後も職員と相談しながら変更するなど、居心地よく過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置・入浴やトイレへの移動通路（歩行車・シルバーカー）の確保・使用場所の特定等「できること」「わかること」を継続できるよう支援している。		